

## 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 工学部、工学研究科	3

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。



## 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
工学部、工学研究科	【4】	特筆すべき高い質にある	【3】	高い質にある



## 1. 工学部、工学研究科

( 分析項目Ⅰ 研究活動の状況 ..... 4 )

( 分析項目Ⅱ 研究成果の状況 ..... 5 )

## 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

### 〔判定〕 特筆すべき高い質にある

#### 〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

第2期中期目標期間に対し第3期中期目標期間では、国際共著論文が約1.4倍に増加し、全論文に占める国際共著論文の割合も増えている。また、名古屋工業大学の研究成果をベースとして省エネ用 GaN/Si パワーデバイスが実用化されたことに伴い、特許・ライセンス収入額が増加している。

#### 〔優れた点〕

- 研究支援・推進制度として、学長裁量経費による「学内研究推進経費」制度を設け、「指定研究」、「戦略的研究」、「将来を見据えた研究」、「若手研究」に研究費を重点配分し、独創的な研究への支援を行っている。特に、学長のトップダウンにより、各年度1件を選定する指定研究では、その成果が科研費をはじめ、総務省/SCOPE や経済産業省/新エネルギー・産業技術総合開発機構などの大型資金の獲得にも繋がっており、平成28年度から平成30年度の3年間に支出した3件の研究費総額3,000万円に対して、総額2億5,696万円の外部資金を獲得し、その費用対効果は、8.57倍である。
- 特筆すべきは、国際共著論文であり、第2期中期目標期間平均：98報に対し、第3期中期目標期間では132報と約1.4倍となっている。国際共著論文数の増加に伴い、全論文に占める国際共著論文の割合も、第2期中期目標期間平均：23.2%から、第3期中期目標期間平均：30.7%と大幅に躍進している。エルゼビア社分析ツール「SciVal」を用いたクロスチェックでも同様の傾向が見られ、論文数、及び全論文に占める国際共著論文の割合とも、第2期中期目標期間と比較して顕著な増加傾向にある。
- 第3期中期目標期間における特許に関して最も特筆すべきは、その特許・ライセンス収入額であり、平成30年度には53,275千円に達した。また、当該期間における平均も21,587千円となり、第2期中期目標期間平均の13,560千円を大幅に上回っている。名古屋工業大学の研究成果をベースとして実用化された省エネ用 GaN/Si パワーデバイスが大きく貢献している。また、ロイヤリティ収入を生む特許件数については、国立大学内での順位はトップクラスにあり、国立工科系単科大学の中では、3位以内を維持している。

#### 〔特色ある点〕

- 名古屋市より、平成 31 年 1 月に「女性の活躍推進企業」に認定されたほか、愛知県が実施する女性の活躍推進の取組に協力する企業・団体として、令和元年 7 月に「あいち女性の活躍プロモーションリーダー」を委嘱された。特筆すべき成果として、女性研究者による科研費獲得増（平成 28 年度：23,400 千円に対し、平成 29 年度：26,780 千円、平成 30 年度：33,930 千円、令和元年度：32,500 千円）に繋がっている。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 高い質にある

### 〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、14 件、6 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、高い質にあると判断した。

特に、「深層学習に基づいた新しい統計的音声合成方式の研究」は、学術的に卓越している研究業績であり、「無動力歩行支援機 ACSIVE の研究」は、社会・経済・文化的に卓越している研究業績である。